

## 川崎病突然死予防に関する研究

|       |               |       |
|-------|---------------|-------|
| 分担研究者 | 東京女子医大小児科     | 草川三治  |
| 研究協力者 | 群馬大学病理        | 大根田玄寿 |
|       | 自治医科大学公衆衛生    | 柳川洋   |
|       | 日赤医療センター小児科   | 川崎富作  |
|       | 日本大学小児科       | 大國真彦  |
|       | 東京医科歯科大学小児科   | 矢田純一  |
|       | 国立予防衛生研究所     | 江頭靖之  |
|       | 東京女子医科大学循環器外科 | 須磨幸蔵  |
|       | 聖マリアンナ医科大学病理  | 直江史郎  |
|       | 横浜市立医科大学細菌    | 田所一郎  |
|       | 京都大学小児科       | 奥田六郎  |
|       | 京都大学病理        | 浜島義博  |
|       | 久留米大学小児科      | 加藤裕久  |

昭和52年度より行われた本研究班は、本年度を以て第3年目を迎え、一応のまとめを行うことになった。そこでまず第1に病理形態学的に、川崎病とはどのような形態をもったものをいうのかという点について、川崎、草川が臨床面から加わって、浜島を中心として大根田、直江、江頭らが討論に加わり、別紙のようなものをまとめた。次に臨床面においては、治療、管理の基準を作成したいと考えたが、原因がまだ究明されないことから、根本的な治療の基準は作成することができず、別紙のような治療、管理に関する提案という形で作成した。管理についても超音波断層エコー図と冠動脈造影が中心となるが、本邦の施設でこれを完全に実施することは困難で、やや理想的な管理方法の提案になり、一般臨床医、学童保健等にも関連して、今後より一層普遍的な管理基準の設定が望まれる。以上の二つをまず最初にあげ、次いで各班員の各個の研究成績を掲げて報告書とする。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和52年度より行われた本研究班は、本年度を以て第3年目を迎え、一応のまとめを行うことになった。そこでまず第1に病理形態学的に、川崎病とはどのような形態をもったものなのかという点について、川崎、草川が臨床面から加わって、浜島を中心として大根田、直江、江頭らが討論に加わり、別紙のようなものをまとめた。次に臨床面においては、治療、管理の基準を作成したいと考えたが、原因がまだ究明されないことから、根本的な治療の基準は作成することができず、別紙のような治療、管理に関する提案という形で作成した。管理についても超音波断層エコー図と冠動脈造影が中心となるが、本邦の施設でこれを完全に実施することは困難で、やや理想的な管理方法の提案になり、一般臨床医、学童保健等にも関連して、今後より一層普遍的な管理基準の設定が望まれる。以上の二つをまず最初にあげ、次いで各班員の各個の研究成績を掲げて報告書とする。